

花暦を5年間記録して

－「森の博物館 玉原」の花暦調査報告－

利根沼田自然を愛する会

<目的>

当会では「森の博物館 玉原」の自然を把握するため、2008年よりこの地で開花する植物269種について、毎年「花暦」と称して開花期を記録してきた。その結果を、近傍の藤原における気象状況と対応させながら考察してみた。その概要を各季節の主な種を取り上げ、報告する。

<結果及び考察>

まず春咲の種であるが、ミズバショウは水中の地下に花芽ができるためか、その年の積雪量、気温や前年の気象状況にあまり左右されず、毎年同じような花期を示した。それに対し、タムシバやオオカメノキなどの樹木は前年の気象状況、その年の残雪量、気温などが花期に影響を与え

		4月					5月						
		5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	31
ミズバショウ (サトイモ科)	2008年				20			◆				24	
	2009年				19			◆				25	
	2010年				25			◆				27	
	2011年				24			◆				18	
	2012年				27			◆				20	

ていた。

トキソウ、ウラゲコバイケイソウ、ツルクケモモなどの初夏に咲く種は、5～7月の日照時間や気温に影響を受けた花期を示していた。

		4月					5月					6月									
		5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30		
タムシバ (モクレン科)	2008年				2		◆														4
	2009年				20		◆														31
	2010年						9	◆													8
	2011年						8	◆													22
	2012年						20	◆													10

またコオニユリ、オクトリカブト、オゼミズギクなどの夏咲種は、7～9月の気温や日照時間によって花期や花芽数が影響を受けていた。

		7月					8月						
		5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30
トキソウ (ラン科)	2008年						26	◆				15	
	2009年						24	◆			4		
	2010年						27	◆				11	
	2011年										3	10	
	2012年						30	◆				15	

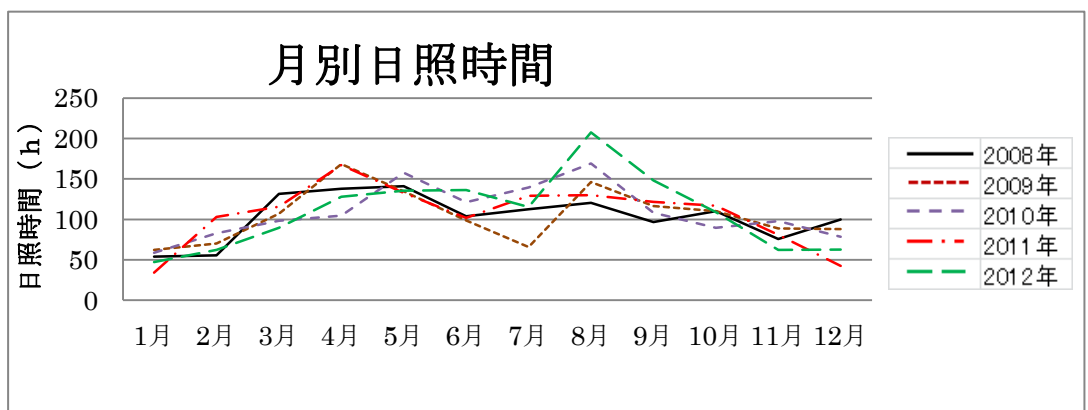
次にサラシナショウマ、タムラソウ、アケボノソウなどの秋に咲く種であるが、その年の4・5月の気温・日照時間、6・7月の気温によって花芽数が影響され、開花時期は8月の日照時間の急上昇によって左右されていた。

		8月					9月						
		5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30
コオニユリ (ユリ科)	2008年						24	◆				3	
	2009年						27	◆				9	
	2010年						22	◆				15	
	2011年						20	◆				14	
	2012年						15	◆				15	

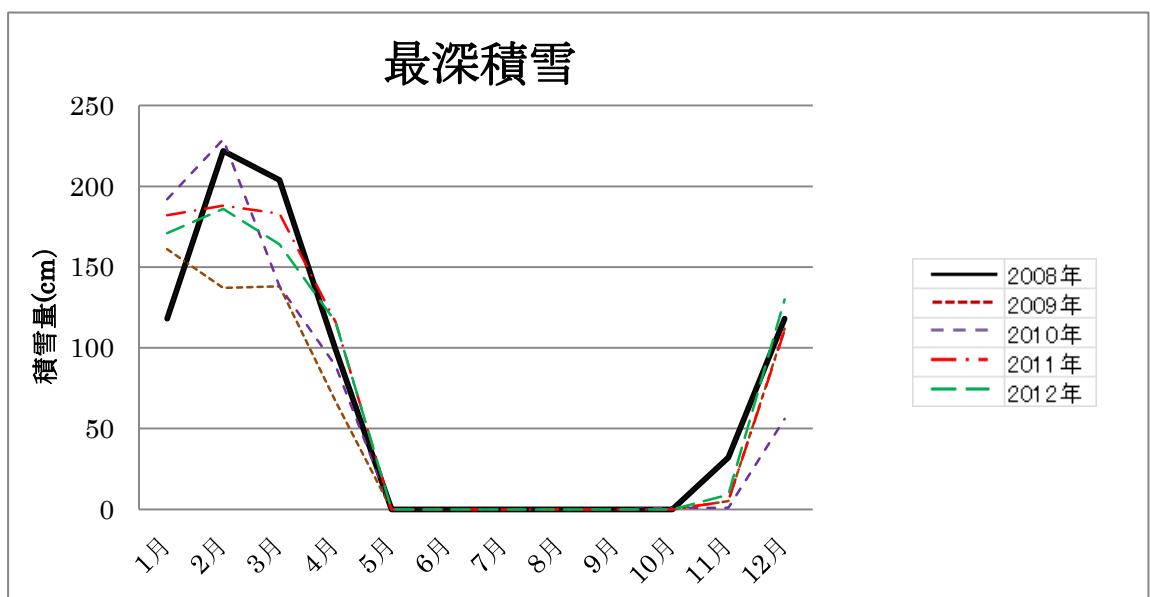
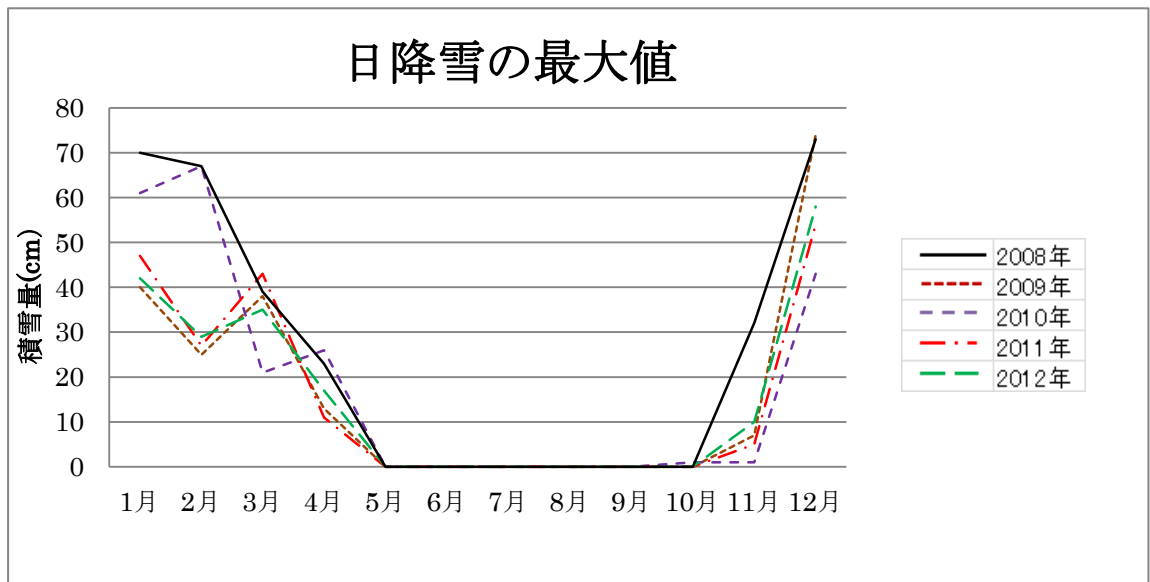
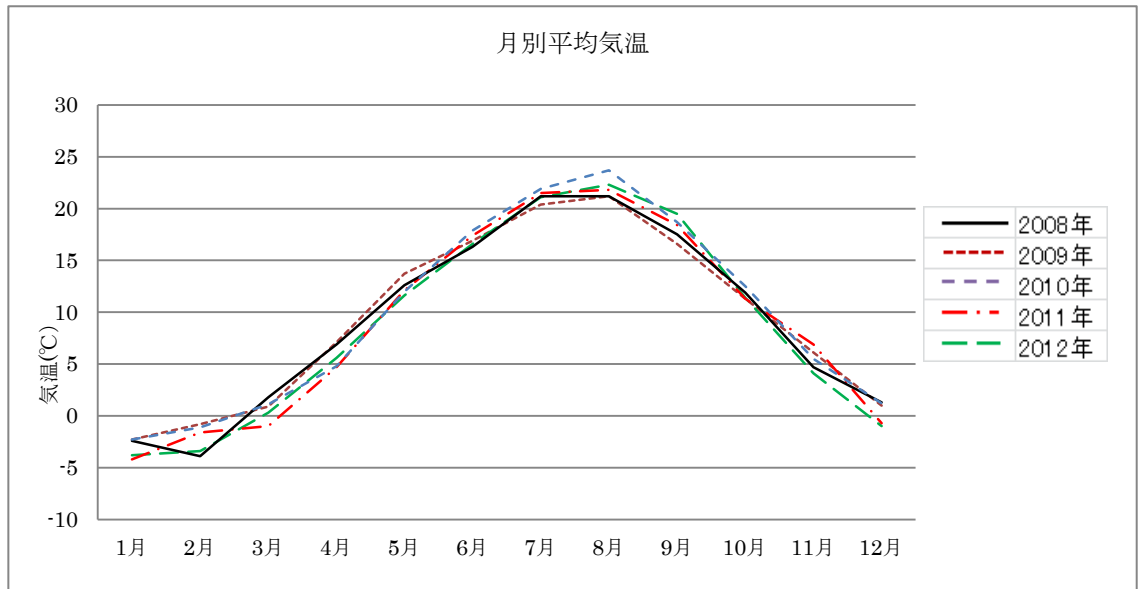
以上をまとめると、地上で花芽を形成する種では、春咲く種は前年の夏の陽気が翌年の花芽数や花期幅に影響を与え、その年の残雪量が開花時期に影響していた。また、夏咲く種については春の気温、日照条件が花期に影響し、秋に咲く種では春の陽気と夏の気温で花芽数が決まり、7月から8月にかけて日照時間が急上昇することで開花時期が早められていた。

		9月					10月					11月					
		5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20
サラシナショウマ (キンポウゲ科)	2008年						31	◆				19					
	2009年						9	◆				25					
	2010年						28	◆				28					
	2011年										6	◆	2				
	2012年						12	◆				29					

次のグラフは、考察資料として今回使用した過去5年間の藤原「月別日照時間、月別平均気温、日降雪の最大値、最



「深積雪」
 である。



<キーワード>

花期幅、開花時期、花芽数、前年の気象条件、その年の気温・日照時間